

7. 小窩裂溝充填塞材の臨床的ならびに走査型電子顕微鏡的研究

木村 光孝, ○辻 裕文, 鬼塚 一徳,
加来 弘志, 粟生 悟, 中河原哲朗
(九歯大・小児)

予防歯科の重要性が認識され、予防充填は小児歯科臨床において大きな位置を占めているが、シーラントの長期的な予後については不明な点が多い。本教室では FISSURE SEAL (ジーシー社製) を用い長期間にわたり臨床的およびレプリカ法を応用した走査型電子顕微鏡による観察を行っているので、今回は3カ月から3年以上の経過例について報告する。

九州歯科大学小児歯科外来に通院している患者に対しデンタルミラーによる視診と探針による触診を行いシーラントの適応症と認められる主に萌出直後のC0またはC1の歯牙に、ブラシコーンと探針による清掃および10%ネオクリナーと3%OXによる化学的清掃を行いラバーダム下で通法に従って充填操作を施した。患者を1カ月毎にリコールし観察を行いビニルシリコン系印象材であるEXAFLEX (ジーシー社製) のパテタイプとインジェクションタイプによる積層2回法で印象後レプリカ模型を作製した。

さらに裂溝内へのシーラントの充填状態を観察するため、萌出後の小臼歯部便宜抜去歯牙を用いFISSURE SEALを充填し、エタノール系列脱水後アセトン置換法について Rigolac 包埋し、矢状断にて精密小型切断機で切断後切断面をバフ研磨し金蒸着を施し走査型電子顕微鏡による観察を行ったので報告する。